

日風豊周

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第102号 平成30年(2018)7月1日

資料見聞

土佐の夏を彩る芝居絵屏風

那須 望

蒸し暑い土佐の夏。日中のまぶしい日差しが翳り、あたりが夕暮れに染まるころ、地域の神社には香ばしい屋台のにおいがたちこめ、人々の楽しげな声が響きだす。絵馬台とよばれる木でできた専用台に（あるいは拝殿や軒先に）、鮮烈な色彩の屏風絵がかざられている。描かれるテーマは、よく知ら

れた歌舞伎などの演目だが、見る者の目を引くのは、激しく血を飛び散らして最期を迎える武士や苦しうに身をも妖美な姿。熱気を帯びていく人びとと妖しげな芝居絵のコントラストはまるで、沈みゆく太陽の明るさと徐々に広がる闇夜にも重なるようだ――



《義経千本桜 すしや》前期展示 深淵神社蔵 当館寄託

――と、ここまでではよく語られる金蔵の生涯。しかし実際は、芝居絵屏風のほとんどは作者名を記さないため、絵金の絵師としての実績は解明されていない点が多い。また、絵金には数多くの弟子がいたといい、現存する芝居絵屏風のうち絵金自身の手が入っている作品は一部であると考えられている。いずれにせよ、絵金が生み出した芝居絵屏風などの祭礼を彩る作品たちが弟子からその弟子へと描き続けられ、今も土佐の人々を魅了し続けていることは紛れもない事実である。ろうそくの火のようにゆらめき実態のつかめない絵金だからこそ、われわれの興味を引きつけ、心をつかんで離さないのかもしれない。

土佐の神社の夏祭りでは、芝居絵屏風と呼ばれる二曲一隻の屏風を飾る地区がある。この芝居絵屏風を生み出したのが絵師・金蔵、通称絵金（文化9年（1812）～明治9年（1876））である。金蔵は、若くして画才を認められ、江戸で狩野派を学んだ。土佐に戻り藩家老の御用絵師になるも、贋作事件に巻き込まれ失脚。その後、一介の町絵師となり、芝居絵屏風を生み出した彼を人々は親しみをこめて「絵金」と呼んだ。



企画展 絵金を継ぐものたち —当館所蔵初公開作品を中心に—

会期：平成30年7月14日（土）から9月17日（月祝）まで 会期中無休
※会期中、展示替えを行います。（前期7/14～8/15、後期8/16～9/17）

幕末から明治にかけて土佐で活躍し絵金と呼ばれた絵師・金蔵。彼が大成した歌舞伎などの演目をダイナミックな構図と鮮烈な色彩で描く芝居絵屏風の技法は、弟子から弟子へと受け継がれていきました。芝居絵屏風は、祭礼を彩るという独特の文化を生み、現在でも土佐の人々を魅了しています。本展では、「野市絵金」と呼ばれた野口左蔵をはじめ、絵金の弟子筋と考えられる名もなき絵師たちの芝居絵屏風や幟などを紹介。併せて、墨の線だけで描かれた白描画を一挙初公開します。

■講座「絵金とその弟子」

8月25日（土）14:00～15:30

●講師 担当学芸員 ●先着130名 ●要事前申込 ●要観覧券
おとなにもこども（小学校高学年以上）にもわかりやすく芝居絵屏風の魅力と弟子の活動を紹介します。

■歌舞伎メイク体験

8月2日（木）、12日（日）14:00～15:30

●各回先着10名 ●参加費500円 ●要事前申込 ●要観覧券
歌舞伎のメイクを自分の顔に施す体験です。カメラを持って参加しよう！

※白粉などを使用します。肌の弱い方はご遠慮ください。

※汚れてもいい服装でご参加ください。また、洗顔のためにタオルをお持ちください。

みどころ1

白描画を一挙初公開！

絵金は、土佐藩家老の御用絵師時代だけでなく、町絵師になってからもたくさんの弟子を抱えていたといわれています。

町絵師時代の弟子たちの多くは、職業絵師であり、普段は絵馬や幟、風などの絵を描いて生計を立て、注文に応じて絵金を手伝い、芝居絵屏風を描いていたと考えられています。

しかしこれらの作品の多くは作者名が記されていません。絵金の代名詞といえる芝居絵屏風でさえもほとんどは落款がなく、隠し落款が認められる作品が数点残るだけです。



友竹斎（絵金の画号）と読める。
《宮本武蔵 白倉道場 湯殿》（部分）
深淵神社蔵 当館寄託

そのため、絵金と弟子たちがどのような役割分担で活動していたかや弟子の系統なども不明です。

当館には、絵金の系統に属すると考えられる絵師による墨の線だけで描かれた白描が寄託されています。総数は11点にのびりますが作者名は記されて

おらず、表現の違いから何人かの筆による白描が混ざっていることがわかります。描かれているのはすべて人物画ですが、もちろんその人物名は記されていません。しかし、「仮名手本忠臣蔵」などの歌舞伎の演目に登場する人物がモチーフと考えられるものも一部確認できました。



《仮名手本忠臣蔵》（右）大星由良之介（左）おかる
細川家蔵 当館寄託

また、下絵となるような完成度の高いものから、練習のためか、同じ紙に手などの一部分だけを数回描いたものまで様々です。この白描コレクションは継続して調査研究をおこなっている最中であり、これまで公開の機会がありませんでしたが、幕末維新博の期間中に開催する本展で、館蔵するその他の絵金派のコレクションとともに初めて公開します。

みどころ2

ふたりの弟子―小龍と左巖

本展では、絵金の弟子として名前の残っている数少ない絵師の中から、二人を紹介します。

一人目は、御用絵師時代の弟子といわれている河田小龍（文政7年〔1824〕～明治31年〔1898〕）です。

小龍は、アメリカから帰国したジョン万次郎の取り調べを行い『漂異紀略』を記した際に得た知識力から、幕末の志士たちからも慕われました。一方で、絵師としても精力的に活動し、絵金に師事したともいわれています。

小龍が描く芝居絵屏風は、絵金に比べ品よくまとまっており、泥臭さはありません。絵金を「動」とするならば小龍は「静」で、それぞれに他を圧倒する画才は、まるで日本の仏師の二大巨頭、運慶と快慶の対比を重ねてしています。

本展では、小龍の描いた「横幟」を展示します。横幟は、幕末の土佐で端午の節句の際に、家の扉に張り巡らされたという紙製の幟です。長さ8.5メートルに及ぶ本作品は大迫力。必見です（展示は部分展示、前／後期で場面を入れ替えます）



《義経千本桜・加賀見山旧錦絵》
河田小龍筆 当館蔵

もう一人は、町絵師時代の弟子といわれる野口左巖（天保7年〔1836〕～明治43年〔1910〕）です。左巖は、現在の香南市野市町に生まれ、紺屋を営んだ職業絵師でした。

本名は絵金と同じ金蔵で、「野市絵金」とも呼ばれたといえます。

当館には、香南市野市町の深淵神社が所蔵する芝居絵屏風12点が寄託されており、次の5点が左巖の作と伝わっています。

花櫛会稽褐布染

菅原伝授手習鑑 車引

一谷嫩軍記 熊谷陣屋

伊達競阿国戯場 累（画像上）

妹背山婦女庭訓 御殿

絵金が活動の拠点とした赤岡町にも、《伊達競阿国戯場 累》を描いた芝居絵屏風が残されています。（画像下）累は姉の祟りのために右目がつぶれ醜い姿になってしまい、さらに誤解か



深淵神社蔵 当館寄託

ら美しい歌方姫を苦しめるので、累の夫・与右衛門が累を鎌で殺すという場面。赤岡の芝居絵屏風では、累は嫌がる与右衛門の着物に力強く引っ張り、歌方姫の着物が噛みついていきます。さらに姉の怨念が火玉となって立ち上っています。まさに累の怨念、憎しみが最高潮に達した瞬間で、緊張感と恐ろしさに満ちています。一方、深淵神社の芝居絵屏風では、与右衛門が口に血の付いた鎌をくわえ、累を抱いています。累は流血し全身が青ざめ力が抜けおちており、もう命がないことがわかります。姉の怨念も、幽霊姿でわかりやすく描かれています。

構図も場面もほぼ同じですが、どの瞬間を切り取るかに絵師の個性が表れており、興味深い作例です。



団体蔵

れきみん!サマーミュージアム ~あやかしの夏~

7月22日(日)、8月2日(木)、12日(日)、25日(日)

夏休みはもうすぐですね!楽しいプランはたてましたか?今年の夏は、「れきみん!サマーミュージアム」で決まりです。昨年の「夏の子ども博物館」を大人も子どもも楽しめるようバージョンアップ。企画展「絵金を継ぐものたち」と妖怪やお化けなどをテーマに開催します。おどろおどろしい(かもしれない)あやかしの世界をのぞいてみませんか。内容を少し、ご紹介します。

まず、絵金と言えば芝居絵を思い浮かべる方が多いのでは?その世界に歌舞伎メイクで近づいてみましょう。血管や筋を表現していると言われる隈



昨年の竹水てっぽうづくり

取り。どんなだけ?と思った方、やってみましょう!カメラ持参OK。その場でSNSにアップしたら、みんなびっくりしますよ。

そのほか、ワークショップとして「あやかしまープリング」や「オリジナルろうそくづくり」、おばけスライムや折り紙など盛りだくさん。奥物部を楽しむ会のみなさんが、水てっぽうの作り方をマンツーマンで教えてくださいます。普段見ることのない歴史民の裏側を見てみたい方には、バックヤードツアーがおすすめです。いろいろなトコロに、いろいろな「お宝」が・・!?どこかに妖怪が隠れているかも。

おなががすいたら、恒例のうまいもん屋台のほか、「南国市PR隊」の赤いキッチンカーへGO!西島園芸団地の人気メニューでランチも楽しめます。

そして、夏休みも終わりが近づくと困ってしまうのが「宿題」。そんな子どもたちのために、高知県立高知東工業高校の生徒さんがお手伝いしてくれます。日頃学んでいることを生かし、楽しいものづくりなど準備中です。夏ならではの「あやかしの世界」、歴史民でお待ちしています。(総務事業課)

長宗我部展示室 コーナー展「火縄銃の世界」

当館2階長宗我部展示室の一ヶ所を使つて年に数回コーナー展を行つていきます。昨年度は「頭形兜の世界」「鎧」仙台洞・仏洞の世界」などを実施。必ずしも長宗我部期の資料ではありませんが、武器・武具にこだわった展示は好評のようです。

さて、今年のコーナー展第一弾は火縄銃にこだわってみました。

「惣別(おおよそ)我が家中に鉄砲の者として格別これなし:家中の侍たる者、虎口へ鉄砲持たせざる者一人もこれなし:。下げ針をも射つほどの上手ども数を知らずこれ有り:鉄砲の者という差別これなく候:あの内蔵助(久武)、弥次兵衛(桑名)も皆鉄砲の者にて候:」(「元親記」)

これは、他国の大名に元親自身が語つたとされるエピソードです。家臣の多くが鉄砲上手で、家老・重臣までもが当たり前のように鉄砲を撃つので特別「鉄砲の者」はいないという訳です。

四国平定戦を展開するうえで兵力不足をカバーするため、積極的に鉄砲を導入し、その普及に努めた元親の姿勢がうかがえますね。

残念ながら元親の時代の鉄砲はほと

んど現存していませんので、今回は江戸時代になつて土佐藩士が武芸のために使用した土筒や、国境警備や害獣駆除用に使用された土佐筒の優品を展示しています。土佐筒以外にも、摂津(堺)・国友・阿波・讃岐などで製造された火縄銃も併せて展示してみました。冴え渡る江戸時代の鉄砲鍛冶の技、実戦から次第にかけ離れてゆく火縄銃の歴史に注目してみてください。(野本)



展示資料の大半は松本幾八氏コレクションと香川春雄氏コレクションです

高知に残る、陸軍大演習を描いた絵馬

次回企画展「維新が変えた庶民のくらし―絵馬や民具から読み解く

高知の近代―」（平成30年10月6日～12月9日）準備中

明治という新時代を迎えた日本では様々な生活様式を西洋風に改めていきました。例えば、ちょんまげや刀を持ち歩くことが禁止されます（散髪脱刀令）。さらに、士農工商という江戸時代の身分制度が廃止され、国民だれもが平等であるとする「四民平等」が叫ばれました。これにともない、徴兵制度がはじまり、国民で国防を担うため武士以外も兵士として戦場に赴く国民皆兵の時代となりました。

本企画展では維新という新時代を迎えた庶民のくらしに絵馬や民具からアプローチし、現代の高知県のルーツを探ることを目的として、現在調査を進めています。そこで展示予定の絵馬の中から近年の調査で発見された「広島鎮台・熊本鎮台福岡県大演習絵馬」（南国市・琴平神社蔵）をご紹介します（下掲写真）。

この絵馬はすでに外枠から絵が外れた状態で発見されました。外れた外枠には「広島鎮台歩兵第十二連隊丸亀営所」明治二〇（一八八七）年一〇月」とあります。また絵には「広島鎮台・熊本鎮台福岡県大演習」とあり、一見すると高知とは縁もゆかりなさそうですが、そうではありません。明治六（一八七三）年徴兵令発布に際し、六軍管六鎮台一四営所が整備され、高知県など四国各県出身者は広島鎮台丸亀営所歩兵第十二連隊所屬となり

ました。高知の連隊としては、かつて高知大学朝倉キャンパスにあった歩兵第四連隊が著名ですが、それが創設される前の話です。このような経緯から演習に参加した人々が帰還後に奉納したと考えられます。琴平神社にはほかに丸亀営所所屬の高知県出身者だけでなく、徳島県や愛媛県出身者も奉納者に名を連ねています。

さて、この軍事演習は明治一八（一八八五）年四月に現在の福岡県豊前市宇島港周辺で実施されました。明治天皇の親閲も予定された（実際は名代を派遣）大規模な演習にも関わらず、昭和初期の時点で既に人々の記憶から忘れ去られていたようです（辛島並明編『広島熊本両鎮台諸兵大演習』一九三六年）。写真もほとんど出回っていない中、その演習の様子を伝える資料としても大変貴重な絵馬といえるでしょう。ただ、あまりに細かく描かれているため、一見しただけでは、演習の様子を理解するのは困難です。そこで、企画展で展示するだけでなく関連企画として、この絵馬を読み解く講座を開催して詳しくその内容を紹介しようと呼準備を進めています。

この他にもたくさん絵馬を展示する予定です
ので、ぜひ足をお運びください。
（石畑）



広島鎮台・熊本鎮台福岡県大演習絵馬（南国市琴平神社蔵）

資料紹介

「田辺寿男撮影の高知の民俗写真および 関連資料」の第二次寄贈資料について

田辺寿男さん（1921～2010）は、高知県の民俗を調査し、撮影した民俗写真家です。その写真は記録として優れているのもちろんのこと、見る人の心をゆり動かす独特の魅力をもっています。

最初に田辺さんの写真資料が高知県に寄贈されたのは、当館が田辺さんの第2回目の写真展を開催した平成18年のことで、白黒フィルムを中心とした約5万点におよぶ膨大な資料群をいただき、目録を刊行しました。この資料群を補完する重要なピースが、今回ご紹介する第二次寄贈資料です。

これは、一眼レフカメラやアルバムからなる11点の資料で、平成23年の第3回目の写真展「土佐を撮る 田辺寿男の民俗写真3」の少し前に奥様のアヤ子さんからご寄贈いただきました。

このご寄贈により、同展では、第7章「受賞作品から」や第8章「仁淀村と無形文化財」を新たに設けて展示を構成していきました。

第8章には、「仁淀村と無形文化財」と題したアルバムを展示しました。このアルバムは、昭和39年に開催された同タイトルの個展の写真

集といった趣きがあります。以前、その構成の妙を本紙でご紹介しましたが、早い段階から田辺さんが民俗に関心を寄せていたこともうかがえるアルバムです。

「受賞作品から」の章のもとにしたのは、写真雑誌や県展の受賞作品が収録されたファイルです。ファイルを見ると、写真集『田辺寿男民俗写真 ほとくの村は山をおりた』に掲載したのは主な受賞作品だけのリストで、実はさらに受賞作品があることがわかります。

田辺さんは全国区で活躍した高知県の写真クラブ「建依別写壇」の会長でした。その会で写真表現を切磋琢磨し、ご自身の民俗写真の世界を充実させていきました。ファイルは、そうした田辺さんのアマチュアカメラマンとしての軌跡をたどる縁となります。（中村）



「晴着 年末年始コンテスト銅賞（関西）」と付記されている。

西郷どんのお札〈西郷札〉

「武士は食わねど高楊枝」。このことわざは、武士が貧しくて食事ができなくても、あたかも食べたかのように楊枝を使って見せる様子から、その清貧や体面を重んじる性質を表わしています。とはいえ、「腹が減っては軍が出来ぬ」というのが本音ではないでしょうか。食料や武器を得るためには資金が必要。いつの時代でも戦争にはお金がかかりました。明治10年（1877）に明治新政府へ反旗を翻し、故郷鹿児島で蜂起し西南戦争を起した西郷隆盛もそれは同じでした。そこで西郷どんらはお金を独自で作っていました。それがいわゆる西郷札です。

西南戦争における西郷軍の戦費は約70万円くらい。そのうち約20%が西郷札によって賄われたそうです（『国史大辞典』吉川弘文館）。諸説ありますが、いまの価値に直すと約3億円ほどでしょう。下の写真にあるように、10円・5円・1円・50銭・20銭・10銭の計六種類が発行されました。それぞれ札表面には金額のほか、発行所の「軍務所」、通用範囲を示す「管内通宝」の文字が見えます。裏面には3年限定で通用させることや、偽造した場合は

処罰するといった言葉が印刷されています。

この使用は主として西郷軍の移駐地において強制通用のかたちをとって行われ、西郷隆盛への信望によってわずかに流通しましたが、西郷軍の敗戦によりただの紙切れに。西南戦争後、政府に対して西郷札に対する損害補償の申請がなされましたが、政府は没収して廃棄処分にしたそうです。そのため、六種全て残るのは極めて稀とされます。そんな稀少な西郷札がコーナー展「西郷どんがやってきた」（会期…9月17日（月祝）～12月16日（日））において六種揃い踏み。乞うご期待。（石畑）



西郷札

第13回 岡豊山フォトコンテスト

今年のテーマは「岡豊山の春夏秋冬」

「土佐のまほろば」といわれる地区にある岡豊山。歴史のロマンと自然豊かな、その魅力を余すことなく伝える作品を募集します。

今年のポイント

- ①オリジナルカレンダーをつくります！季節のバランスで選びますので、入賞作品が必ずしも採用されるとは限りません。あまり撮影されることが少ない季節の作品もお待ちしています。
- ②来年2月末で見納め！国史跡・岡豊城跡「櫓」を撮った作品は、「櫓大賞」のチャンスもあり。来年は見るできない景色を、ぜひ今年撮影してください。
- ③簡単応募！「ケータイ・スマホ部門」は、撮った作品データをメールフォームから送れます。
- ④投票で決まる！「みんなのお気に入り賞」は、作品展示会場で投票、来場者の心をつかんだ作品が選ばれます。
- ⑤審査員は、天然写真家・前田博史さん。
 - 応募期間…平成30年7月1日（日）～10月14日（日）17:00まで
 - 作品展示期間…平成30年12月7日（金）～平成31年1月14日（月・祝）9:00～17:00（最終日は16:00まで）
 - 展示会場…1階フリースペース、または2階エントランス
 - 詳しくは、チラシ・HPでご確認ください。



岡豊城跡 だより

幕末維新博の開催に併せて、期間限定（平成31年2月末まで）であげている櫓は、今年も梅・桜・つつじ・紫陽花と季節の花がバトンタッチするように装いを変える岡豊山の頂上にあります。

国史跡・岡豊城跡は、昨年4月6日（城の日）に公益財団法人日本城郭協会により『続日本100名城』に選定され、今年4月6日から全国一斉にスタンプラリーが始まりました。これまで494名の方（5月31日現在）がスタンプ帳を持って来場されました。

皆様もぜひ、ふらり綴り（岡豊山パンフレット）を見ながら、期間限定の『櫓』にふらりとお越し頂けたらと思います。（櫓垣）



新館長あいさつ

樋口 毅彦

この4月から武政龍司館長を引継ぎ館長を務めさせていただいております。就任の初日から「第8回岡豊山さくらまつり」&「第9回土佐の食1グランプリ」で、多く関係の方々のご協力・ご支援をいただき、たくさんの方々にご来館いただきました。その後も、企画展「安政地震、幕末を揺るがす」やそれに関連する講演会・講座の開催、「土佐のまほろばウォーク」「れきみんの日」「長宗我部フェス」の実施など、慌ただしく3ヶ月が過ぎようとしています。当館の取組を支えてくださっている方々に改めて心からお礼を申し上げます。本紙でも一部ご紹介していますが、引き続き、職員一同、お客様のご期待に添えますように、今年度も精力的に研究調査、企画展示、解説や地元の皆様をはじめとする関係の方々との連携によるイベントなどを順次実施してまいります。

期間限定の櫓の建つ岡豊山は、桜やツツジの花は終わりましたが、爽やかな風と緑のすがすがしい景色となっています。公園を散策しながら、郷土の歴史や文化に触れてみませんか。新たな発見などもあると思います。皆様のお越しをお待ちしております。

志国高知 幕末維新博関連企画 第7弾



《伽羅先代萩 御殿》
深淵神社蔵 当館寄託 (後期展示)

絵金を継ぐものたち
— 当館所蔵初公開作品を中心に —

会期 7月14日(土)～9月17日(月祝)
会期中無休、途中、展示替を行います。
(7/14～8/15前期展示、8/16～9/17後期展示)

好評
開催中!

コーナー展

「火縄銃の世界」 8月13日(月)まで

長宗我部軍の兵士も愛用した火縄式の鉄砲を生
産地別に分かりやすく展示します。

臨時休館のお知らせ

館内メンテナンス作業のため
7月2日(月)休館

岡豊風日 (おこうふうじつ) 第102号
平成30年7月1日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
〒783-0044 高知県立歴史民俗資料館
南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円
(企画展)通常展 510円
(企画展)通常展 510円
団体(20名以上) 360円
団体(20名以上) 410円
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手
帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳
・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者
手帳・被爆者健康手帳所持者とその介
護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/>
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

コーナー展

せご 西郷どんがやってきた

9月17日(月祝)～12月16日(日)

明治初期、西郷隆盛が
来高し、木屋(竹村
家)に宿泊しました。
竹村家に残る西郷関連
資料を中心に紹介。今
年の主役西郷どんと高
知のつながりを紐解き
ます。



西郷隆盛が履いた下駄 竹村守博氏蔵

岡豊山めぐり、開催しています!

岡豊城跡を楽しみながら散策したい方を、
案内人がお手伝いします。

●案内日時

平成31年3月末までの毎週 土・日・祝日
(ただし休館日や雨天時は中止します)

午前10時出発と午後2時出発の2回
所要時間は30～40分。事前予約不要

※上記以外の日時での案内希望の方は、希望日の2日前
までにご連絡ください。できる限り対応いたします。

予告
その1

志国高知 幕末維新博関連企画 第8弾

「維新が変えた庶民の暮らし

— 絵馬や民具から読み解く高知の近代 —

10月6日(土)～12月9日(日)

本年は明治維新から150年に当た
ります。
本展覧会では、絵馬や民具を通し
て、明治時代から大正・昭和初期
にいたる高知の人々の営みを紹介
します。



蓄音機 竹村守博氏蔵

予告
その2

コーナー展

「国史跡・岡豊城跡」

10月1日(月)～平成31年3月31日(日)

岡豊城跡が国史跡に指定されて10周年をむかえることから、
岡豊城跡で出土した瓦などを展示します。